

令和元年 12月 27日
 大分県農林水産研究指導センター
 農業研究部

イチゴにおけるハダニ類の防除について

本年度はイチゴでハダニ類が多く発生しており、令和元年 10月 2日に病害虫発生予察注意報を公表しましたが、12月に入っても発生量が多い状況が続いています（図1）。

向こう1ヶ月の気象予報によれば、本虫の発生に好適な高温条件が続くと予想され、発生が継続すると予想されます。寄生密度が上昇してからでは防除が困難となるため、早期発見に努めて速やかに防除を実施してください。

効果的な防除を行うため、薬剤を散布するときは葉裏にも十分に薬液がかかるように努め、天敵導入の際には事前に気門封鎖剤などによりハダニ類の密度を下げるようにしてください。

1. 発生の状況（12月中旬巡回調査）

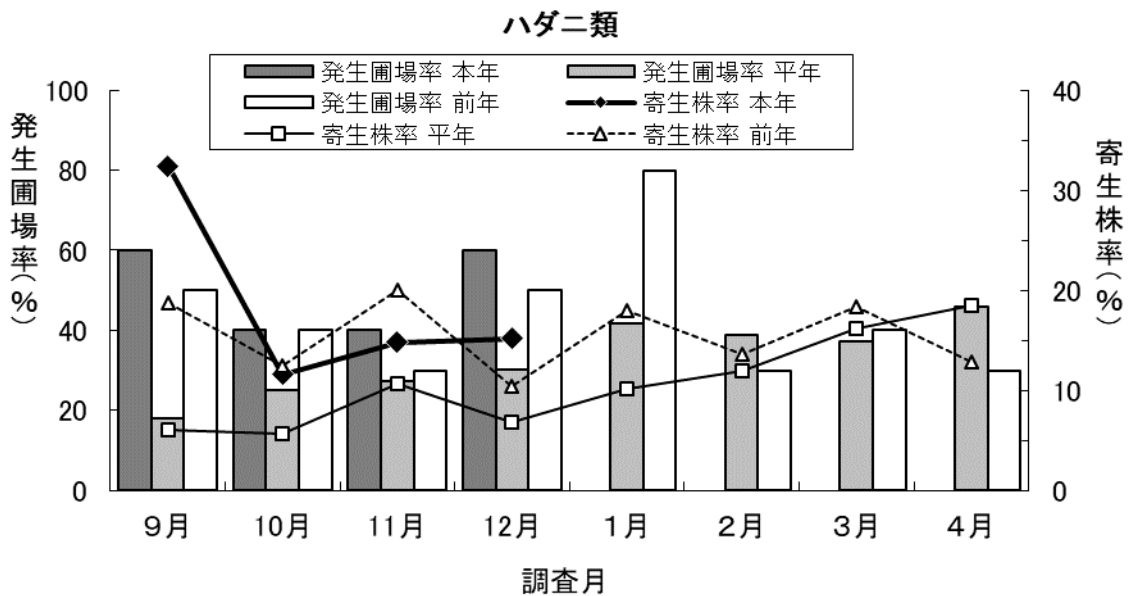


図1 県内イチゴにおけるハダニ類の発生状況

2. 防除上注意すべき事項

- (1) 本虫は薬剤抵抗性が発達しているため、気門封鎖剤や天敵（カブリダニ類）を利用する。
- (2) すでに多発生が認められている圃場では、気門封鎖剤を中心に複数回防除を行って本虫の密度を下げてから天敵（カブリダニ類）を導入する。
- (3) 気門封鎖剤に展着剤を加用すると効果が落ちるため注意する（サフオイル乳剤は加用を推奨）。なお使用実績のない剤は、あらかじめ数株に散布して薬害の状況を確認する。
- (4) 本虫は紫外線を嫌って下葉の裏に多く生息するので、古い下葉の除去を行ったうえで薬液が葉裏にかかるように丁寧に散布する。また、短期間に複数回散布すると効果が高まる。散布は曇雨天時を避け、薬剤が速やかに乾く晴天時に行い、薬害に注意する。
- (5) 天敵に長期間影響を及ぼす薬剤があるため、天敵の導入にあたっては薬剤の選定に十分注意する。
- (6) 殺菌剤であっても天敵導入後ただちに薬剤散布を行うと、影響が懸念されるため期間を空ける。また防除薬剤には展着剤も含めて天敵への影響が少ないものを選定する。
- (7) 天敵に対する薬剤の影響については、日本生物防除協議会ホームページ内にある「天敵等に対する農薬の影響目安」（<http://www.biocontrol.jp/Tenteki.html>）を参照する。



(ホームページアドレス <http://www.biocontrol.jp/Tenteki.html>)

- (8) 防除薬剤は、大分県農林水産研究指導センター病害虫対策チームホームページ内にある「大分県主要農作物病害虫及び雑草防除指導指針」（<http://www.jppn.ne.jp/oita/>）の「いちご」「野菜類」の項を参照する。なお、薬剤によっては指針の更新日以降に登録内容が変更されている場合があるため、容器のラベルに従って使用する。

(ホームページアドレス <http://www.jppn.ne.jp/oita/>)

